

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	施設理念として、家庭的な雰囲気の中で支えあい、地域の中でその人らしく生活できるケアを提供する。という基本方針を掲げている。ほか、生きがい、安心と笑顔で、仲良くなど、4つのホーム目標を掲げている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設理念は居間に掲げられ、また職員はカードにプリントしたものを携行して、絶えず心に刻んでいる。日々のミーティングや会議で不安や疑問が生じたときは、理念に立ち返って方向性を確認するようにしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族へ入所契約時に、施設が出来ること、家族からの協力も必要であることを理解して頂く。常に入居者の状況がわかるように来訪時、また急ぎの場合は電話にてお知らせをおこなっている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣のかたに冬の除雪のお世話になっている。その方も含め散歩中など、お会いする方に挨拶を行っている。回覧板の受け渡しなども手から手へと努めている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入。施設の夏祭りには近隣の方々を招いている。また近くの小学校との付き合いも活発で、よさこい踊り、楽器演奏など来訪を受け、子供たちとの交流に涙される場面もある。家族、町内会のかたにも参加して頂き運営推進会議にてご意見を頂いたり、活動内容を知っていただく。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣には施設が多く、施設同士での協力も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の要望を日々の行動からも汲み取り、要望の声はその場で聞き、家族の意見も確認したうえで対応している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態に変動があった場合には、すぐにお知らせする。家族の来訪時には定期往診の提供表を渡し、日々の状況など伝えている。掲示してある写真からも普段の表情を見て頂いている。定期的にケアプランの説明をし、家族の意向も確認している。金銭は、月に一度支出残高を示し、お知らせしている。ホーム便りもようやく発行にこぎつけ、皆さんの様子を伝えている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を玄関に設置している。契約時に苦情受付機関についての説明を行っている。日々家族からの疑問、意向などに注意を払い対応している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のミーティングや、月に一度の会議など機会を作っている。話し合いを行いその都度いい状態をみだしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	出来ている勤務での対応の難しい場合には、自分も含め職員の勤務も調整を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	三年近く離職者がいなく、利用者の環境に変化なく過ごされている。今後異動などあれば状態を把握し、配慮を行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外での研修に参加し、他施設職員とも交流し広い視野を持つよう努めている。資格年限のある者には認知症介護実践者研修を受けさせている。OJTを大切にしながら日々の仕事の中での気づきや、疑問を解決することでスキルアップをはかっている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム管理者会に所属し、情報交換や職員研修などの取り組みに参加している。研修では他施設職員とのディスカッションもあり、交流をしている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日々職員とのコミュニケーションをとり、不安を軽減できるように問題解決に取り組んでいる。	
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員一人一人に目を向け、分担できることは任せ、責任ある仕事になるよう取り組んでいる。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用になる前に面談を行い、話をさせて頂き緊張をとき距離感が縮まるように努める。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の不安を軽減できるように利用前に面談を行い、今後連携していけるように、コミュニケーションを図る。入居前には居室の荷物などの配置も今までと変わりなく生活が出来るように、また安全に気を配り相談しておく。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の体調、精神面を家族から情報を頂き、どのような支援を必要としているのかしっかり見極め、相談内容に柔軟に対応していく。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用前に一度足を運んで頂き利用者の皆さんと短い時間でも一緒に過ごし、雰囲気を感じて頂く。また、他のグループホームとの比較も勧め、充分納得しての利用となるよう努めている。入居当初は職員が様子を見て他の方との交流の場を設ける。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常の中でその方の希望と能力に応じて役割を持ち、張り合いをもって頂く。歌会をするとほとんどの方が歌い、時間を忘れていても度々である。変わらず介護者も楽しめる介護を目標として、体操、歌会、ゲーム、誕生会、散歩、外出、外食など組み入れ楽しみを持って頂く。暖かくなってくると散歩を希望されることも多くなり、できる範囲でお応えする。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入所時に家族にも協力をしていただくようお願いしている。本人にとって良い方向に家族と連携をとり一緒に支えている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の気持ちを伺い理解するよう努め、家族にはお時間があれば本人と会う時間をもって頂くことが、本人の一番の安心である事を伝えている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前から交流のある方の来訪、電話、郵便物など本人に取り次ぎ、交流を続けていけるよう支援を行っている。家族にもその都度伝えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	関わりの持てる時間を提供する。午前には体操を行い、皆さんの表情を確認、体操から歌、昔遊び、なにげない会話へと発展していく。体操に気分で参加されない方もその後のコーヒータ임には来られ、皆さんとの時間を過ごされている。午後にも飲み物のお誘い、飾りづくり、もやしのひげとりを一緒にに行い関わりを持っていてい		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声がけをしその時々の状態を把握する。不安からの同じ訴えの繰り返しに対し、同じ対応を行い、安心して頂く。夜間には入居前からの習慣から全てのコンセントを抜く方、真っ暗でなければ眠れない方、安全を考えた対応を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一日の流れが出来ている方には、その流れを崩さないように時間を考慮して提供する。強制ではなく、声がけにて本人の意思を優先している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝のバイタル測定、食事、水分量のチェック、排便の有無を把握。日々の状態や変化を記録し、職員で情報を共有できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員会議にて前回の介護計画の評価、見直しを行い、職員が一人ずつ割り当てを持ち、作成をしている。計画作成者が計画内容の管理を行い、家族に報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	最低3ヶ月ごとに一人一人に適した介護ができるように、話し合い見直しを行っている。健康状態、精神状態に著しい変化が生じた場合は、新たな介護計画を作成している。また家族への報告も行い、意見も頂いている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日の流れを個別に記録し、言動、体調、往診、受診記録などの情報を全員が共有している。それに基づき会議も行う。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内の特養、老健施設などの相談窓口と連携し、本人や家族の状況に応じて柔軟な支援を行っている。事業所として出来ること、出来ないことを説明している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。			
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。			
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医による定期受診、定期往診を受けている。必要に応じて協力病院での検査も行っている。入所前からのかかりつけ医があり、継続の場合は家族の協力も頂き受診出来るよう支援している。週に一度全員訪問看護を受け、連携し、24時間心身ともに健康管理を受けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科Dr.の定期往診を受け、状態を伝え、診察を受け治療を受けている。往診以外でも随時電話での相談も行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の訪問看護と契約により、24時間の連絡体制が確保され医療連携体制加算の体制をとっている。週に一度体調管理の為訪問あり、状態の変化があれば電話での指示、あるいは訪問、受診の指示をうけている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院時に医療機関と連携し、情報を共有し利用者、家族の不安が軽減できるようつとめている。また家族からの情報も頂き協力を得ている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時に、重度化した場合の対応についての説明を行い、書面にて確認を行っている。訪問看護の医療連携体制、また協力医療機関が周囲にあるので、体調の変化に応じ、主治医、家族とともに相談を行う。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化の指針において事業所として出来ること、出来ないことを明確にし、応じた支援を行うことを家族に説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒、たばこを日常的に好まれる方はいなく、飲み物は、一人一人好みにあわせて対応している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	声がけ、介助が必要な方に対しては、状況に応じて誘導、また時間誘導にて行っている。便秘症の場合は排便の有無を把握し、Dr.とも相談を行い排便を促している。自立されている方の把握は難しいが普段よりトイレの使用時間が長い、回数が多いなどで本人へ状態を確認している。失敗があれば本人の気持ちを配慮し対応している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入る曜日は決まっているが、その中で時間の変更の希望があれば対応している。また、その日に入れない状況があれば変更し、対応している。湯船の温度は好みにもより、その都度調節を行っている。入浴後に塗り薬などの対応、爪きり、整髪、水分摂取などゆったりと過ごして頂いている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夕食後ほとんどの方がお部屋で過ごされ、それぞれが休む時間が習慣となり、決まっている。その時間に合わせて、夜勤者は対応し落ち着いて眠れるように援助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常的に体調がよければ本人の意思も確認したうえで、食後の食器拭きをして頂いている。本人にとっても目と耳が不自由なことから部屋に入りがちであったが、習慣になり表情もよく冗談も言われるようになってきている。見て一緒にして下さる方もいる。歌が好きな方には同じく歌の得意な方と歌う場を設け、楽しんで頂いている。手先の器用な方に施設の飾りつけを手伝って頂いている。昔遊びではしゃぐ事も職員が教えていただくこともある。新聞、雑誌、文庫本など読み自分の時間を充実させている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っていることで安心感があり、少なめにと家族にお願いをし、持っている方が何人かいる。個人的な買い物やをされる時に使われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	暖かくなるとお天気の良い日には散歩、外気浴を行っている。外出は季節を問わずその季節に合わせた内容を考え提供し、お誕生日には好みをお聞きし、外出に出かけている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	場所、時間により全員参加と少人数の場合がある。いずれも健康状態と安全をふまえ行っている。面会時にレクの内容を家族に伝えている。写真も見て頂いている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の要望があればその都度対応を行っている。はがきを出したいと要望の際書く行為が本人難しい時には代筆の対応を行う。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人が面会に来られた時には、居室、リビングどちらでも落ち着かれる場所で過ごして頂き、飲み物をお持ちする以外は本人とゆっくり過ごして頂いている。なるべく本人に面会される前に近況を伝える。利用者により食べ物の管理が難しいと思われる方への面会に来られた知人にはこちらで預かる事を理解して頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をすることはない。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外玄関の鍵は開けた状態で過ごしている。居室には鍵はつけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	言葉かけに敬意の気持ちを持つ。居室を訪室する時には必ずノックをし、合図を行う。耳が遠くノックに気づかれない方には、状況に応じて安全を確認し退室するか、驚かないよう配慮しながら近づき声をかけている。夜間は定期的に巡回をし、安全確認を行っている。都度必要に応じた介助えを行う。ナースコール、マットコール、センサーなどの利用もあり。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁は、遅番が片付けが終わった後に鍵をかけて危険のないようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急対応マニュアルをに基づき職員一人一人強い意識をもち、事故防止に努めている。起きた事故には記録を残し、対応策を検討している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを確認している。夜勤者は人口呼吸時に使用するマウスピースを常時携帯している。協力病院へ連絡し指示を受ける。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者を設置し、研修を受けている。防火管理者を中心に災害時を想定した訓練を計画中である。消火器、火災探知機の取り扱いを職員全員が出来る。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入所前、また本人の変化に応じ、リスクの可能性について現状を家族に伝え、家族の要望もふまえたうえで対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェック。また利用者により一日に2回、3回とチェックを行っている。日勤者から夜勤者へ口頭で体調の変化があれば伝える。体調の変化が見られたときは訪看に連絡をとり指示を受ける。受診、往診の内容は記載し情報を共有している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋や受診事項に記載されていることに目を通し内容を把握し、内服薬は全て職員が種類用法などを周知し管理している。服薬時には、個人の能力に応じて手渡しや介助を行っている。いずれも飲み込みまでを確認している。点眼はその方の用法により介助を行っている。外用薬は個人管理をされている方もいる。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘症の方に対してはDr.にも相談をし、整腸剤を服用。水分摂取にも気を配り、排便表でチェックを行っている。便秘が解消されない場合はその方に用意されている下剤、あるいは座薬を使用し解消している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自立されている方は食後に歯磨きを行っているか見守りを行い、声がけと介助の必要な方方には毎食後口腔ケアの支援を行っている。義歯をしまいこみわからなくなり混乱のある方の場合夜間義歯を預かり洗浄している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は毎食一人一人日誌に記録している。嗜好、摂取量、形態をその方の状態に合わせておだししている。その日により眠気が強く食事が困難な場合一度臥床して頂き、その後食事や水分摂取を促し介助を行う。内科Dr.の指示で生野菜、果物を控えている方がおり、対応している。水分の確保の為にチェックをしている方もいる。その方以外にもあきらか残したりと少ない方には再度好みに合わせお出しする。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外からの感染予防に備え、外部の方にも玄関での消毒をお願いし、受診の際にはマスクを使用し、帰所ごは消毒を行う。職員は必ず消毒薬を持参し、感染症と疑いのある場合、居室に具えている感染予防対策セットを使用する。また感染対策マニュアルを整備している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は期限切れのないように日々点検を行い、季節により生鮮類には必ず火を通す。ふきん、まな板は消毒を行う。調理者は手の消毒をしっかりと行い、時にはディスポを使用する。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>清潔感のある玄関を維持。周辺には小さいが菜園を作り、家庭感を感じて頂く。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>日差しが多く入る天窓があり、眩しすぎないように対応している。季節に合わせて廊下や玄関に利用者と一緒に作成したものを飾っている。ベランダには物干しを設置し、夏は洗濯物を干し生活感を出している。畑、花畑を一緒に楽しむ。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自由な空間であり、お茶をしながらの会話を楽しむ方。読書を楽しむ方。新聞をゆっくり隅々まで読まれる方。歌が好きでビデオを観ながら口ずさむ方。ソファでうたた寝されている方。と、それぞれの過ごされかたがある。レクになると広く活用できている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時には使い慣れた家具や日用品を継続して使用できるように本人や家族と話合っている。毎日の生活の中であったほうがよいと思われるものがあれば家族と相談をしている。例えば室内干しなど。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>利用者に害のないように喚起を行っている。備え付けの換気扇の使用。空気清浄機の使用で感染症の予防を行っている。居室温度は一括管理しており、希望により調節を行っている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリー構造で施設内各所に手すりがある。居室内危険と思われる角には保護カバーを備えている。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>全てを介助するのではなく、その方の能力に合わせ、残存機能を引き出し、自立の支援を行っている。見守りを怠らず本人の気持ちを重視する。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>暖かい季節には庭にベンチ、テーブルを設置し、外気浴を楽しむ空間を提供し、春から秋にかけて花壇や畑を作り、収穫を行っている。散歩帰りに草取りを始められることもある。</p>		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くない
98 職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

昨年同様毎朝の日課に定着した体操の時間を今後も続け、筋力維持と利用者同士のつながりの場としていきたい。家族との交流としてお食事会、クリスマス会を行っている。今後も取り組んでいきたいです。